

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第253号 (2025.12.21-2025.12.28)

参加者 クイスケ、しまねこくん、藤岡あや、栗井ゆずる、三明十種、海月漂
美蟲角（びちゅうかく）、白水ま衣、笛地静恵、西脇祥貴、
Nichttrachender、都まなつ、鈴木正巳、石原とつき、モロツコひろみ、
あつみのマルコ、西沢葉火、真白（ましろ）といいます。 汐田大輝、
大山 晶子、薄明かり、夜ボエム寄る？、砂のような、岡村知昭、塩
の司厨長、蔭一郎、水の眠り、青海波、空野つみき、銀星星郎、しろ
とも、天然石アクセサリーEtc.、雷（らい）、季川詩音、何となく短
歌、よしびこー、安藤 蜜豆、山田真佐明、砂原妙々、宮坂愛哲、ひ
いらぎ、流離するおかん時々オクラちゃん桃瀬、霧雨魔理沙、溺れる
水草、雨声、まごけい、schwarz、石川聡、松本清展、不思議な話の
アイン、わたなべじゅんこ、麦ちひろ、ShuShu 月波与生（五四名）

◆川柳・俳句

文字化けをごちそうに化けさせるサロメ クイスケ
ツチノコとじつはともだち 都まなつ
手のひらをえらぶ氷よく眠れ 都まなつ
家出して歳時記になる 都まなつ
クリスマスたぐさんの肉焼かれゆく 都まなつ
罰として食べている岩 都まなつ
折りたたみ傘は思春期 都まなつ
くちびるに触れる手前のシュークリーム 汐田大輝
じわりじわりと在家の蛇にくるまれる 汐田大輝
水飴が事切れるとき見せた思慕 汐田大輝
脆弱なトートバッグに替えて吉 汐田大輝
チンアナゴさえ都営大江戸線に乗る 汐田大輝

水圧の弱き冬至のシャワー浴ぶ 蔭一郎
兎に角をサイドスローで投げてみる 蔭一郎
とはいえを追いつ越してゆく消防車 蔭一郎
セバスチャン年末始がだいきらい 蔭一郎
主婦の顔大根スパッと切る朝餉 真白

ペリー・ローダン完食す Nichtraucherchen
街路樹の枝を疑う町に着く 雷

約束を見てきたような寂しさだ 雷

「平成」の文字と並んだ顔を見る 雷

目のうらが目のまえになり珈琲飲む 雷

結露するオルガン奏者 白水ま衣

齧ると苦い二人称 白水ま衣

コンビニの中に改造された雨 空野つみき

満潮のコインロッカーから琥珀 空野つみき

カナリアになりたくなくて歯を磨く 岡村知昭

手首の溝を濯ぐ中島みゆき 西脇祥貴

初雪やみかんを剥いている時の音 休職さん

手札揃わず仔猫のそつぽ アリタ別館

背骨抜くと沈みゆく商店街 アイン

山茶花や明日は見えます大丈夫 真白

揚羽蝶産まれよ二元論ひらけよ nes

うるさいと猫が鳴いてもマダムの手 山田真佐明

指先の狐火腹の中で燃ゆ 片羽雲雀

おいでおいでと穴埋める 石原とつき

*

かくれんぼ終わり煤逃げもう終わり しまねこくん
象鼻のブツ切りとある櫓の盛 三明十種

さみしさが私を殺す 海月漂

時雨来て一つ減りゆく物語り 美蟲角

前のひとの黒いウンチ 笛地静恵

幽霊の正体は君か雪女郎 鈴木正巳

カフェも抹茶もどっちラテ 西沢葉火

女です赤赤咲きたい寒椿 真白

物を買うそれは自由の疑似体験 大山 晶子

8日になつたら買うケーキ 塩の司厨長

薄まった青を足す日はさみしくて しろとも

牡蠣うや環境破壊とはなにか 季川詩音

もみあげにもみあぐちから山眠る よしびこ！

何をしてても、病む。 安藤 蜜豆

人の子の生命線に刺さる釘 宮坂変哲

小さき灯燃へよと祈る聖夜かな ひいらぎ

ひとつにはなれぬ聖夜に 雨の音 霧雨魔理沙

水面には触れずに水を出ておいで soukonisi

ウラ窓全開全身フユ 石川聡

クリスマススイブイブは不眠の日 まどけい

8度目はぼくのマグマが許さない 清展

幽遠のコスプレイヤーの唇 アイン

*

そして気化する虚偽告訴する少女 月波与生

◆ 短歌

ぼくたちは 足があるから花には成れず 蜜蜂に頼らず愛に

彷徨う 藤岡あや

鼻歌にメランコリックが混じるからあの日の曲は検索でき

ず 水の眠り

*

ねえ話 聞いているいつもなぜそつも上の空なの何か気にな
る 栗井ゆずる

点(とも)りだす街の星座を見上げれば忘れたはずの悔
いも煌めく モロツコひろみ

手袋の指先だけが春を待つ触れぬままでも熱は移りぬ あ
づみのマルコ

街中のホリデー気分を吸い込むも平年並の冷たい孤独 薄
明かり

靴下は吊るされたまま雨に濡れ冷えたからだにうんざりし
てる 砂のような

夜が明ける全てを曖昧にする白で黒い冬を見つけられない
青海波

売れ残るケーキを過ぎて酒を買い逝ったサンタの体温の夜
銀星星郎

雪に佇む無言の杉に 祖父の姿重ねて 天然石アクセサリ
—kiki's

かじかんだ指先包み温めるココアで疲れ癒やせよサンタ
何となく短歌

包装紙めいた光に包まれて行き場をなくした手が冷えてゆ
く 砂原妙々

とても大切だと思っていたものを手離したら なんだか楽
になった 温いクリスマススイブ 流離するおかん時々オク
ラちゃん桃瀬

天井に漏れる外灯針の音 止まらぬ思考転がるからだ 溺
れる水草

◆詩・短文

作品はありません。

◆作品評から

26日になったら買うケーキ 塩の司厨長

くやつぱり値引き狙いですよね。最近は何物も上がって
きてますから。でも、値引きされていても、「なんか少し
高いな」と思うときがありますね。あと、売れ残っている
のがキャラクター系だと、なんだか胸がキューとなって買
ってしまいます。(季川詩音)

セバスチャン年末年始がだいきらい 蔭一郎

くロッテンマイヤーさんに叱られることが増えそうです
もんね。(わたなべじゅんこ)

かじかんだ指先包み温めるココアで疲れ癒やせよサンタ
何となく短歌

く優しいですね。きつと疲れますよ。わざわざ遠いと
ころから来て配ってるんですから。そして、全国のお父さ
ん、お母さん、おつと失礼！とにかく癒されてほしい
ですね。(季川詩音)

何をして、病む。 安藤 蜜豆

くこんな夜は独り身ロンリーが余計な拍車をかけて来る
ので、病める宵です。Christmas 関係無く病める時も生か
されてしまった側で、生きていますが(笑)(麦ちひろ)

ひみつばかりのアッコちゃん Nichttraudchen

くいいね。くういうの大好きです。く幸せは歩いてこ
ないので困る 北野岸柳)という酔っ払って書いたような
句がありますが川柳の面白さはこういう句から始まるの
ではないかと思えます。(月波与生)

段違い平行棒に干した鮭 蔭一郎

く自分が現代川柳を書き始めた頃はこのような構文の句
が多かった。最近のネット川柳ではあまり見なくなったの

で廃れていくのかな、と思っていたところの蔭一郎句。
今もリアル句会では受けます。(月波与生)

今年の一字に疊を選ぶ クイスケ

く今年の一字に「疊」を選ぶ人は少ないと思うがこの句では選んだ。その違和感が面白さを誘う。「に」をカットして77の形でいいのでは。(月波与生)

マダムとの会話のツボが滝になる 山田真佐明

く「滝になる」の唐突感を「会話のツボ」でうまく距離を詰めている。(読み手は滝壺なる言葉を連想し唐突感が相殺される) (月波与生)

鉄塔になった少女のくらげ狩り 空野つみき

く「くらげ狩り」が面白い。検索してもでてこないのが作者の創作熟語だろうか。こういう言葉の生成が出来る人は強いよ。多作なもの〇。(月波与生)

人の子の生命線に刺さる釘 宮坂変哲

く破傷風気をつけて下さい (ShunSaito)